

【研修参加学生の報告書から】海外歯科研修プログラムV（カナダ）

・今回カナダのバンクーバーにあるブリティッシュコロンビア大学歯学部で5日間の研修を受けた。この研修を通じて日本と他の国との研修制度や臨床実習の違い、大学の制度やカリキュラムの違い、授業形式の違い、学生のプロフェッショナリズムの違いなどを知ることができた。ブリティッシュコロンビア大学の臨床実習では初めに先生にその日の患者の治療に関してライター先生にプレゼンを行い、許可が出たら学生が1人で患者さんを診察や処置を行い、途中で行き詰まったり、分からないことがあったりしたらライター先生に質問に行くといったシステムで、学生が主体的に診療を行うことができるという点でとても良いシステムだと思った。（歯・5年）

・普段の鹿児島大学での授業や私が今まで体験した日本での授業は先生から学生への一方通行のような授業だったように思うが、ブリティッシュコロンビア大学では先生と学生が通じ合うような授業のように感じられた。今回の研修は短期間でも今後の歯科医師としての展望を変え得るようなものであったと言える。それは海外の歯科学生や歯学部を見てそれを比較することで、私たちの勉強や行動に新たな判断材料が加えられ、それが将来的に必ず生きてくると思っているからだ。実際に歯科医師免許を取得してから改めてどこか海外の大学や歯科医院に行ってみてもまた違った視点で比較し吸収できるだろうと思った。（歯・5年）

・多民族国家のため西洋人から中東系、アジア系など多国籍の学生が集まっており、通常ほとんどが日本人のクラスで学んでいる私にはとても新鮮だった。先生も学生も外部から来た私たちに積極的に挨拶してくれ、日本の学生にはない習慣だと思った。また、先生と学生の距離が近く気軽に質問できるような環境だと思った。学生は朝8時から夜9時まで学校にいて勉強していてとても勉強熱心だと思った。（歯・5年）

・日本では歯科医師の免許がないと患者さんを治療することは出来ないが、ブリティッシュコロンビア大学（以下UBC）の学生は2年生から患者さんに触れることができるとのことだった。OSCE^{*1}を終えたばかりの身としては、患者さんに対する態度がとても板についているUBCの学生にとっても感銘を受け、同じ年齢と思えないくらいだった。受付も見学させていただいたが、その患者さんを担当する生徒が受付まで迎えに来ていて、チェアへの移動時間に今日の体調や具合を聞いていた。日本よりも患者さんとの距離の近さを感じた。見学している私たちにも気を遣って話しかけてくださり、日本の学生と違う点を多く発見できた。何よりもUBCの学生には強い意志と治療に対する楽しさを感じた。また、授業にも参加したが、診療に対する感想と同じように一人一人が自立していると感じた。（歯・5年）

^{*1}OSCE（客観的臨床能力試験。この試験とCBTに合格することが臨床実習に進むための条件となる。）

・日本と違った点で、一番に取り入れた方が良かったのは、生徒の自主性である。実習においても、講義においても、生徒の自主性が強いと感じた。また、自分も含めてだが日本人は英語を話す機会を持つとせず、他の国よりもだいぶ劣っていると思う。この点については自分が3年生のときに行った、APDSA^{**2}においても感じた。机上の勉強よりもまず聞き取ること、そして話そうとすることが大事であると強く感じた。そして、こういう海外研修のきっかけがあったならば、是非行ってみて、自分の目で見て感じてくることがとても大事だと思う。勿論日本は平和でとても良い国だが、海外でもっと視野を広くして日本に還元できたらより良い診療や教育を受けることができる気がする。（歯・5年）

^{**2}APDSA（Asia Pacific Dental Students Associationーアジア太平洋歯科学生会議）

（次ページに写真掲載）

▼修了証書授与



▼English Bay Beach, A-maze-ing Laughter 像前

